

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第472号 平成24年4月



『大雪』 稲垣壮太郎

目 次

	頁		頁
1) 感染症だより	西多摩保健所 … 2	7) 西多摩地域糖尿病医療連携 検討会からの今月のメッセージ	北森要一郎 … 10
2) 連載企画 新潟出張の思い出(その4)	奥村 充 … 3	8) 理事会報告	広報部 … 11
3) 専門医に学ぶ	熊谷隆志 … 4	9) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 15
4) 学術部インフォメーション	学術部 … 6	10) お知らせ	事務局 … 17
5) 公立福生病院近隣での 病診連携について	吉田英彰 … 8	11) 東京都医師会雑誌 「銷夏随想集」原稿募集	広報部 … 18
6) 広報だより 「龍」	近藤之暢 … 9	12) 表紙のことば	稲垣壮太郎 … 18
		13) あとがき	渡邊哲哉 … 18

感染症だより

<全数報告>

第7週（2.13-2.19）から第10週（3.5-3.11）の間に、管内医療機関より以下の報告がありました。

（二類感染症） 活動性結核 5件（肺結核 2件、肺外結核 3件）

（三類感染症） 腸管出血性大腸菌感染症 1件（O157 VT2 陽性）

（四類感染症） レジオネラ症 1件

（五類感染症） なし

<管内の定点からの報告>

	7週	8週	9週	10週
	2.13～2.19	2.20～2.26	2.27～3.4	3.5～3.11
RSウイルス感染症				
インフルエンザ	656	399	357	364
咽頭結膜熱	2			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14	18	8	19
感染性胃腸炎	28	33	42	49
水痘	7	11	5	3
手足口病				
伝染性紅斑	2	3		2
突発性発しん	2	3		
百日咳				
ヘルパンギーナ				
流行性耳下腺炎		1	2	
不明発疹症				
MCLS				
急性出血性結膜炎				
流行性角結膜炎	1			
合計	712	468	414	437

基幹定点報告対象疾病（細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎（オウム病を除く））

報告はありませんでした。

<コメント>

① 西多摩管内のインフルエンザの報告は減少傾向ですが、過去5年間の同時期と比較して多いです。

管内では、第6週は55.14をピークに第9週の25.40まで減少傾向にありましたが、第10週は26.00と微増となっています。また、定点医療機関の迅速診断検査では、A型：B型が1：7とB型の割合が高くなっています。

都内の定点当たり報告数は、第10週は22.26（9,327件）と、第5週の45.20（18,939件）をピークに減少傾向にありますが、依然として高い値です。また、特別区では定点当たり報告数が30未満となりましたが、多摩地域では、多摩立川30.48、多摩小平38.78、南多摩30.00、八王子市34.56と、30を超えています。

全国の定点当たり報告数は、第10週は21.06で、第6週以降減少が続いています。都道府県別で高いのは、新潟県41.89、山形県39.81、福島県37.80、埼玉県31.89、秋田県31.27です。

今シーズンのインフルエンザの流行はピークに達したと思われませんが、東日本で警報レベルを超えている都道府県が多くなっています。また、B型の割合が高くなっているため、今後しばらくは注意が必要です。

② 感染性胃腸炎

管内、都内とも、定点当たり報告数は過去5年間と同様の傾向ですが、管内では第8週以降は、第8週4.13、第9週5.25、第10週6.13と増加傾向にあります。また都内では第10週の定点当たり報告数は8.66と第9週の7.52よりやや増加しています。

③ マイコプラズマ肺炎

管内からは第7～10週の報告はありませんが、都内の定点当たり報告数は、過去5年間と比較してやや多くなっています。また、全国的にも過去5年間の同時期と比較してかなり多く、都道府県別で高いのは、第9週では沖縄県2.86、栃木県2.71、宮城県2.33です。

文責：東京都西多摩保健所保健対策課

連載企画



新潟出張の思い出 (その4)

羽村市 小作駅前クリニック 奥村 充

(前回の続き)

(7) 秘境 秋山郷への往診

秋山郷は、新潟県の津南町と長野県の栄村にまたがる中津川の溪谷に沿った集落。人々は昔、クマ狩りや焼畑を行っていたそうだ。現在では、秘湯として知られるようになった。

昔は雪が降ると、津南から秋山郷へ向う道が通行止めになり孤立し、飢饉が発生したこともあったそうだ。私が勤務していた時も、雪が降り続くと道路は通行止めとなっていた。通院が出来なくなるため、ある程度病状の重い人は、津南病院に越冬入院していた。

春になり雪が少なくなると、越冬入院していた患者さんたちは退院していった。そしてこの頃より、往診を頼まれるようになった。遠方の往診を頼まれることもあり、車で片道1時間かかることもあった。秘境 秋山郷へも何度か往診に行った。津南から秋山郷へ向う道は、中津川の深い溪谷に沿って走っており、車1台が通るのがやっとの所も多かった。崖くずれのため工事をしているところもよく

みかけた。運転をあやまれば、深い谷底に落ちそうなスリルある道路だった。

秋山郷は、大家族で住んでいる家が多かった。ある日往診宅に着くと、待っていた家族は深々と頭を下げ、部屋へと案内してくれた。部屋に入ると、次から次へと子供が出てきて、気がつくと10人くらいの家族が布団で寝ている患者さんの周りを取り囲んでいた。私の診察を見学している様だった。津南町の周辺は豪雪地帯のため、太い柱の家が多かった。また、昔は、マタギがいた集落であり、玄関や居間にクマの毛皮を置いている家も多かった。陽が高いうち着いても、往診宅を出る時は真っ暗になっていることもよくあった。深い溪谷に沿った山間の集落なので、あつという間に陽が沈んでしまうのだ。春になっても、陽が沈むと急に冷えこんでしまう。帰りには、野菜や手作りの菓子をもらうこともよくあった。帰路は、街灯のない真っ暗で、今にも深い谷底に引き込まれそうな溪谷沿いの道を走り、津南病院まで戻ってきた。途中、タヌキ等の動物を見かけることもあった。

(つづく)

専門医に学ぶ 第87回

青梅市立総合病院 血液内科 部長 熊谷 隆志

〈症例〉

今回は白血球増多を示す若年患者を紹介いたします。

症例 30歳女性

主訴 白血球および血小板増多

現病歴 定期健診にて白血球及び血小板増加(60万台)を指摘され当科受診。自覚症状なし。

検査所見；血算 WBC 17410/ μ L, RBC 466万/ μ L, Hb 12.4g/dL, Ht 38.0%, MCV 82fl, MCH 26.6pg, MCHC 32.6%, Plt 76.9万/ μ L 白血球分画 Stab 0.5%, Seg 77.0%, Lympho 13.0%, Mono 1.5%, Eosino 2.0%, Baso 5.5%

身体所見；脾臓2横指触知

1, 考えにくい血液疾患はどれか。(2つ)

- (1) 急性骨髄性白血病(AML) (2) 慢性骨髄性白血病(CML) (3) 特発性血小板増多症(ET)
(4) 骨髄異形成症候群(MDS) (5) 再生不良性貧血(AA)

2, 骨髄穿刺で骨髄過形成像が得られ、Blast増加はなかった(写真)。染色体検査で9番と21番染色体が転座したフィラデルフィア(Ph)染色体を確認した。診断は？

3, 第1選択としての治療は何か？

- (1) プスルファン、ハイドロキシウレアなどの抗癌剤 (2) インターフェロン(IFN)
(3) 経口分子標的治療薬 Tyrosine Kinase Inhibitor (TKI) (4) 造血幹細胞移植

〈考察〉

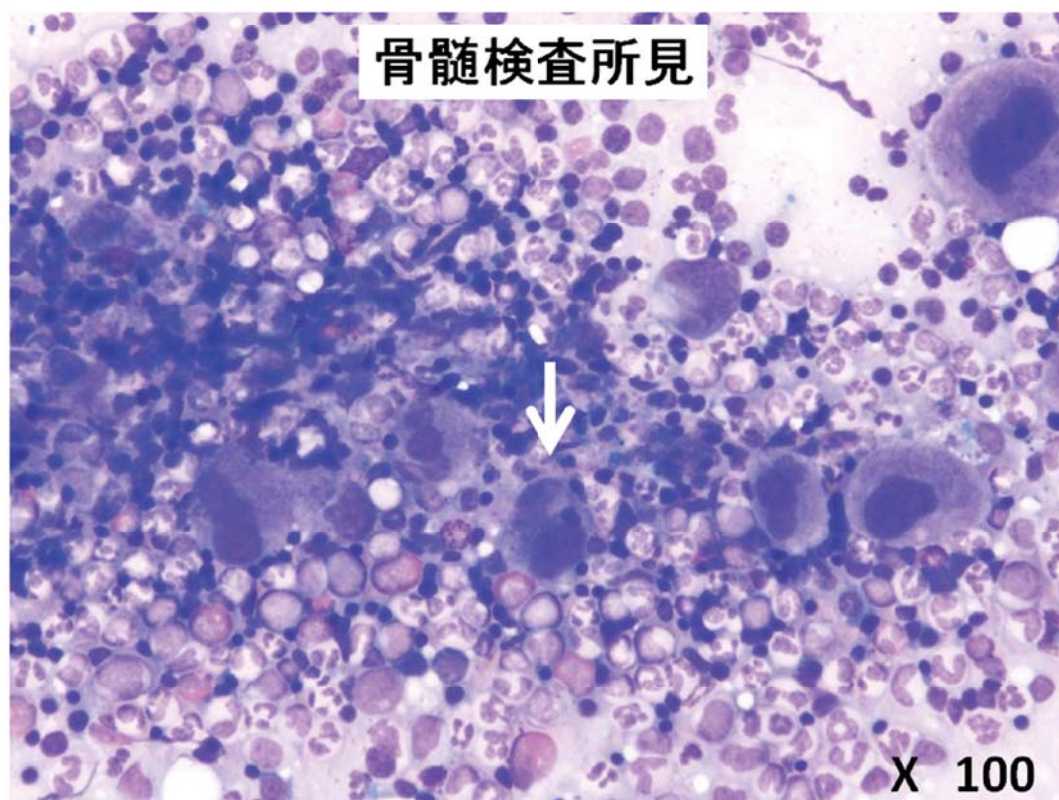
1, 白血球や血小板が増加、CML, ET, PVなどの骨髄増殖性疾患や急性白血病が鑑別にあがる。MDSやAAは血球減少を示す疾患である。 (4) (5)

2, 骨髄像は骨髄増殖性疾患に合致し、Blast増加はなく急性白血病は否定された。Ph染色体を検出し CML(慢性骨髄性白血病)と診断される。末梢血で好塩基球(baso.)が増えているのも特徴である。

3, CMLは自然経過では平均3-4年で急性白血病に移行し死に至る。プスルファンは血球を減少させるが、造血幹細胞の遺伝子を傷つけ(変異原性)、急性転化を早めてしまう。ハイドロレアは変異原性は少なく一時的に使用されることもあるが急性転化を予防できない。IFNや造血幹細胞移植は一部の症例で急性転化を防ぐが、強い有害事象のため第一選択ではない。

CML 原因遺伝子として 1980 年代に Ph 染色体上の bcr-abl 融合遺伝子が発見され、それに基づき bcr-abl 活性を直接抑制する経口分子標的治療薬 Tyrosine Kinase Inhibitor (TKI) が開発された。第 1 世代 TKI, Imatinib に加え、大半の Imatinib 抵抗例にも効果がある第 2 世代 Dasatinib, Nilotinib も開発され、最近初発時から保険適応になった。忍容性が高く効果も優れている TKI の導入により、急性転化は大幅に抑制され CML の予後は飛躍的に改善した。現在 CML 治療には TKI が第 1 選択 である。

TKI は現時点では一生服用する必要があるが、高額医療費などの負担が問題である。それを克服するため、当科では都立駒込病院や都内の一連の大学病院などと連携し、腫瘍量を RT-PCR と呼ばれる保険外検査（患者負担無し）で測定し腫瘍細胞が初発時の $10^{-4} \sim 10^{-5}$ まで減少し PCR 法で認められない状態（完全分子遺伝子学的寛解）で TKI を中止する試みを行い、世界最先端の CML 治療を目指している。



骨髓系の細胞の増殖を中心とする過形成骨髓。血小板産生に関与する巨核球(→)も増加している。



学術部 Information



1. 西多摩医師会パネルディスカッション

毎年度恒例の医師会主催の西多摩医師会パネルディスカッションが、「認知症の鑑別診断」～専門医から学ぶ診断のコツ～というテーマで、3月22日(木)に公立福生病院 1F 多目的ホールにて開催されました。脳外科医の立場から公立福生病院の小山英樹先生に、精神科医の立場から秋川病院の植田宏樹先生に、神経内科医の立場から青梅市立総合病院の高橋真冬先生に講演して頂きました。お陰様で多くの会員の先生方にご参加頂き、活発な質疑応答が行われ、大変有意義な講演会であったと思います。尚、本会の詳細につきましては、次号の医師会報にて大野学術委員より報告して頂く予定です。

2. 第10回西多摩医師会臨床報告会について

前号のこのコーナーにて予告しました通り、2月21日(火)に開催されました第10回西多摩医師会臨床報告会について、會澤学術委員より報告があります。大変解りやすく要点をまとめて頂きました。以下に掲載致します。

(学術部担当 江本 浩)

第10回西多摩医師会臨床報告会に出席して

西多摩医師会学術部 学術委員 會澤 義之

2月21日火曜 19時半～21時半に公立福生病院多目的ホールで学術部長の江本浩先生が座長をされて開催されました。今回は記念すべき第10回で、10年前の第1回が開催された時には今後も続いていくのだろうかと思惑を感じたが、それも杞憂であったと、横田会長の挨拶がありました。今回も5演題の発表がありましたので、報告致します。

1. 「特発性ネフローゼ症候群発症におけるヒトパルボウイルスB 19及びEBウイルス感染の影響」

公立福生病院小児科 岡本さつき先生に代わり研修医の富永麗子先生発表

1年間に小児10万人に5人、約1300人が新規発症する特発性ネフローゼ症候群(以下NS)を2011年2月末～10月末に9例(男児4例女児5例、2～21歳、発症時年齢中央値10.2歳)経験。例年の年間1～2例より明らかに多く、同年は全国的にヒトパルボウイルスB 19(HPVB19)が流行し、過去にそれにより発症した報告もあり関連性を評価した。入院・診断時のステロイド治療前と、治療中2～3週後のペア血清の抗HPVB19・IgM抗体・IgG抗体と合わせてEBウイルス抗体(VCAIgG・VCAIgM・EBNA抗体)について検討。【結果】ステロイド感受性は7例、2例は抵抗例(1例は腎生検でIgA腎症と診断、120kgの男児は生検せず)。抗HPVB19は0例、IgG抗体陽性例は発症時5例、ペア血清では0例。EBウイルス抗体価でも発症時のVCAIgM陽性例は認めなかった。【考察】昨年は西多摩地区の伝染性紅斑が異常に流行するも、当院のNS症例で血清的にその関与は証明されなかった。今後症例を重ね、検討を続ける必要がある。西成田先生から2つ質問があり、プレドニゾロン国際法・長期漸減法の選択や病理について松山

先生と活発な意見交換がなされました。

2. 「関節リウマチと変形性指関節症の重複例について」

公立阿伎留医療センター 内科 吉野明博先生

関節リウマチ (RA) は手関節・手指が高頻度に障害され、MP・PIP (指中節関節) の障害が特徴的、変形性指関節症 (OA) も中年以降の女性に好発する関節疾患で、特徴的な変形はDIP (指末節関節) のHeberden結節・PIP関節のBouchard結節がある。しかし非典型例では鑑別困難である為、血液検査でのRF (RAの80%以上で陽性)・MMP3 (活動性のRAで陽性)・抗CCP抗体とレントゲン所見上で診断する。しかし今回両疾患の重複例を経験した報告でした。私からは重複例の治療はOA・RFのどちらかの治療法をまず開始するのかが質問しました。西成田先生より返答があり、RAに準じてメソトレキセート・サラゾピリン等の投与で初期治療を強力に行うとの事でした。最初の2年に強力に治療しないと、あとから炎症のコントロールのみしても関節破壊は止められなくなるので、早期治療が重要と解説されました。

3. 「喀痰の多い気管切開患者様の対応」

青梅今井病院 原島千鶴子看護師

今井病院3階病棟では、医療区分が導入されてから区分2である気管切開患者様が10名近くまで増え、喀痰の管理が常時必要です。気管切開部から喀痰を噴出する事が多く見られ、首周りを含め枕・シーツ・布団・寝衣・本人の頭髮まで汚染されるので病棟のタオルも不足する事態となり、病棟内で解決する方法を検討。経管栄養・紙パック等で試行錯誤して、病院に採用されている使用済み点滴ボトル (固いラクテックよりソルデム3A500mlが適していた) を切って気管切開部に装着したところ、タオルは1人2-3枚使用で済むようになった。取り付ける際の注意点は、気管カニューレ本体が引っ張られないようにする、テープ固定は濡れて取れるのでホチキスで留めることだそうです。

4. 「Bortezomib、Lenalidomideなどの分子標的治療により長期に病勢がコントロールされている形質細胞性白血病」

青梅市立総合病院 血液内科 廣瀬千紘先生

[諸言] 原発性形質細胞性白血病 (Primary PCL) は形質細胞が腫瘍化した非常に稀な白血病で、強力な化学療法を用いても平均余命1年以内とされる。近年多発性骨髄腫に適応となった2種の分子標的治療薬を用いて約5年病勢コントロールが得られている貴重なPCL症例を経験した。
[症例] 59歳男性。2007年6月白血球増多で発症。骨髄検査でPCLと診断。Hyper-CVAD-MAなどの強力化学療法無効。2008年6月Bortezomib (Bz) 点滴開始。3クールで腫瘍細胞及びPCLの産生するM-蛋白消失 (寛解) 2009年5月再燃するも化学療法併用Bz療法で再度寛解。2011年2月再増悪し経口分子標的治療薬Lenalidomide導入。外来で10クール試行し寛解 (フリーライトチェーン消失) となる。2012年1月血清FLC測定法により、より深いレベルでの完全寛解も確認した。

[考察・結語] 一般にPCLは化学療法抵抗性であるが、一連の分子標的治療が画期的治療法となる可能性がある。以上貴重な症例報告でした。

5. 「最近4年間に実施した死体検案1360例の検討」

野本医院 野本正嗣先生

平成20年1月から平成23年12月までに実施した死体検案1360例について検討。

- (1) 男女比は男性62%、女性38%と男性が多かった。
- (2) 年齢分布は高齢社会を反映して65歳以上が70%を占め、男性では75～84歳が、女性では85歳以上が最も多かった。
- (3) 死因別内訳では脳出血が最も多く、次いで自殺、急性大動脈解離、クモ膜下出血、急性心不全、急性心筋梗塞の順であった。
- (4) 脳出血、クモ膜下出血、急性大動脈解離は寒冷期に多い傾向があり、血压管理の重要性が再認識された。
- (5) 自殺は他の疾患に比べ、圧倒的に男性が多く(77%)、より若年層に多い傾向が見られた。(35～44・55～64 > 45～54歳)

この報告に月別の発症頻度の棒グラフも提示され、座長の江本先生を含めいくつもの質問・意見交換がなされました。心筋梗塞は必ずしも冬に多くは無いが、脳血管系及び大動脈解離は12～1月に多い事から、降圧剤増量は寒くなってくる12月を1ヵ月前倒して11月から投与を検討してみてもは。夜間に発症が多い事から、投与のタイミングも1日1回だけの薬剤は朝から夜服用に変更するも一案か等活発な発言がありました。以上簡単ですが、報告致しました。

公立福生病院近隣での病診連携について

公立福生病院 医療部部長 整形外科 吉田 英彰

これまで、当院では病診連携があまり行われていませんでした。数年前に森整形外科医院院長、森先生や高木病院院長、高木先生方から、西多摩整形外科医会への参加をおすすめ頂き、初めて近隣の病院や医院の先生方とお話させて頂く機会を得ることができました。お話ししていると、開業の先生方もやはり実際に顔が見えて、どんな先生なのかというのを知らない、紹介しにくいとのことでした。

それからは、様々な研究会、会合などでお会いさせて頂き、仲良くお付き合いさせて頂いております。当院整形外科は、病床数・医師数からすると外来患者数が多すぎます。これからは、病診連携をさらに進めて、外来診療は開業の先生方、手術療法は当院にてという住み分けをどんどん勧めていきたいと考えております。

今春当院は7階病棟もオープンし、フルオープンとなります。整形外科の病床数も増えるので、ますます入院診療中心の体制へ移行していきたく思っております。

当院外来には、福生、あきる野、青梅など近隣の整形外科医院をお示した地図を置いており、いつでもご紹介できるようにしております。

あいざわ整形クリニック、會澤義之先生には、ご紹介頂いた患者様が入院されると必ずいらっしやっけて頂いております。患者様も大変お喜びになり、また安心されるようです。

整形外科の開業医の皆様、これからも病診連携のますますの発展に向けて宜しく願いいたします。また、当院へも気軽にどしどしいらっしやっけて下さい。

広報だより



龍

あきる野市 近藤医院 近藤之暢

暦は春、お彼岸も過ぎたのにいつまでも寒い日が続き三寒四温どころではない状態です。

今年は辰年で昇り龍などという言葉があるように景気や気運の上昇が望まれます。寺社などの天井に描かれている龍をいくつか観る機会を得たので徒然なるままに紹介したいと思います。

寺などの天井に描かれた龍の多くはただ描かれているだけでなくどこから見上げて常にも自分の方をにらんでいるかのように見えたりするものがあります。平成9年に描かれた京都天龍寺法堂天井・雲龍図は見上げたまま移動すると龍そのものの向きが変わり常に自分の方を向いているように見えます。おそらく絵画を勉強されている方からしてみればその技法なるものがあると思います。ただ天井を見上げているばかりの小生は感心するばかりです。

京都妙心寺法堂天井・雲龍図は直径12m程あり立派で天龍寺のものと同様、見る位置や角度によりその表情や動きが変化しているように見えます。妙心寺には三門天井にも龍が描かれています、龍も含め周辺を囲む画も1599年創建以来みどりを中心とした色彩が美しいまま残されています。殆ど光をあてることがない（1年に1日のみ数時間開けるだけです）が本年1月から3月に特別公開）ので退色もなく大変きれいでした。ちなみに私は恥ずかしいことに三門というのは山門（山・寺などが山に多いのでそこに至る門）の別名と思ってました。本来は三（参）解脱門と言い、空門・無相門・無願門の三境地を経て仏国土に至る門（貧・瞋・痴の三煩を解

脱する門／声聞・縁覚・菩薩の通過門などとする説もあります）のことだそうです。

龍によっては鳴き龍などと称されているものがあります。

怖そうにみえる龍なので叫ぶ、吠えるなどの方が力強く良いように思いますが、聞こえてくる音が優しく響き渡るように聞こえるためかはたまたこの世を破壊するような所行はしないので優しく聞こえるような鳴く、鳴るといふ表現をとっているのでしょうか？

有名なのは日光の輪能寺薬師堂の天井に描かれた龍です、確か小学校6年の修学旅行で聴いた記憶がありますが期待が大きかったせいかあまり鳴いているようには聴こえなかったように感じました。また京都相国寺法堂天井・蟠龍図は大変有名です。拍手で何度か挑戦してみましたがあまり芳しい鳴き方はしませんでした（気温・湿度の影響？）。

意外に身近な所にも鳴き龍がありました。実際には鳴り龍というそうですが日野市の高幡不動尊・大日堂にあるものは大変よく鳴き（鳴り）ます。また中央に立って手をたたいている本人には大変よく聞こえ、周りにいる人には単なる乾いた拍手しか聞こえません。堂内の大きさもちょうど良いのかもしれませんがかなり感動しました。これらの鳴き龍（鳴り竜）も科学的にはフラッターエコー／スウィープエコーというのだそうで床と天井、壁と壁などの二つの平行な硬い面の間で音が多重に反射して生じる反響現象だそうです。

オーディオなどを趣味とする人にとってはなるべく発生させたくない現象と思います。音響学的にいえばフラッターエコーは中高音域

で発生するもので硬い平行面があれば発生するようです。また高音域での破裂音で生じやすいため拍手等で生じやすのだそうです。ちなみにフラッターエコーはリスニングポイントによってさほど影響されないそうです。また定在波というのがあってこれは低域の持続音で起こるものでリスニングポイントによって特性上大きな山や谷が出来るそうです。もしかしたら高幡不動のものはこの定在波の要素もあるのかもしれませんが。どちらにしても興味深い現象と思います。過去に鳴き龍の描かれているお堂が修復を受けたときにそれまでの鳴き龍とわずかに趣が異なっていたという報告もあり音響学的に再現が難しいようです。

ちなみに龍ではありませんが東京国際フォーラムの渡り廊下（ガラスホール棟の地下一階、総合案内所の向かい側）でも短いな

がら鳴き龍現象が認められると言う報告があるので試してみてください。何らかの御利益があるかもしれません。

最後は神社にある彫刻で出来た龍です、瀧尾神社（たきおじんじゃ）と言う神社で大丸百貨店の礎を築いた豪商・下村彦右衛門（福助のモデルとされる）が熱心に参拝した神社です。街並みの中にありこぢんまりとした神社です。拝殿の天井に龍の立体彫刻があり拝観は自由でスリッパに履き替えて拝殿に上り間近でみる事が出来ます。全長約8mほどの無垢材で掘られた龍は日本一大きなものともいわれています。あまりのでの良さに夜な夜な抜け出し近くの川まで水を飲みに行くともいわれたことがあるそうです。

京都駅に比較的近いので京都観光の帰り道タクシーなどご利用時に足を伸ばしてもらい参拝すると良いと思います。

『西多摩地域糖尿病医療連携検討会からのお知らせ』

検討会からの今月のメッセージは、公立阿伎留医療センター内科部長 北森要一郎先生にお願いいたしました。

『糖尿病医療連携検討会からの今月のメッセージ』

インクレチン関連薬について

インクレチン関連薬に関して、既に多くの先生方がDPP-4阻害薬を中心に日常診療で使用なさっておられると存じます。インクレチンアナログ製剤については注射剤であることやインスリン依存状態でないことの確認等が必要であり、今のところ外来での導入は多くないかと思われまます。

糖尿病専門医の先生方にご指導いただきながら、当院にて入院管理下、インクレチンアナログ製剤を20名ほどの患者さんに導入させていただきました。

このうち、特に注目しなくてはならないと思われるのは比較的若い(40～50歳台)、初回治療の患者さんへの適応です。随時血糖300～500mg/dl、HbA1c:9～14%の患者さんでもインクレチンアナログ単独で著効し、該当する5人の患者さんのうち2人は既にdrug freeでHbA1c:5%台を維持、2人は今後drug freeになる可能性が極めて高くなっています。今後、外来診療でも使用可能な条件等の検討が進み、糖尿病治療の柱となることが期待されます。

● 理事会報告

★ Information ●

2月定例理事会

平成24年2月28日(火)

西多摩医師会館

[出席者：横田・田坂・鹿児島・蓼沼・野本・川間・江本・宮城・池谷・川口・近藤・岩尾・山川・川上・松原]

【1】報告事項

1. 都医地区医師会長連絡協議会（2月27日）報告

1. 都医からの伝達事項

①受診時定額負担に反対する署名運動協力のお礼に関するポスターについて

770万人以上の署名あり

すでに配布済み

②母子健康手帳の任意記載事項の予防接種項目について

ロタウィルスが追加された

③都立高校の健診をめぐる問題について

学校医が事前に人数・曜日・時間などを調整するようにした。

（八王子市・日野市などは生徒数が多く主治医だけでは調整つかずに協力医師を依頼し学校医がその費用を持ちだしている）

④第10回都民公開講座について

「考えたことありますか！？もしも、健康保険制度がなかったら・・・・・・・・」

日時：平成24年3月24日（土）午後1時30分～

会場：有楽町朝日ホール

講演：「貧困大国アメリカにみる日本の近未来 ～守るべき宝とは～」

—— 講師：堤未果氏（ジャーナリスト） ——

講演：「日本の医療保険制度」

—— 講師：中村秀一氏（内閣官房社会保障改革担当室長）

ディスカッション：

「ちゃんと知りたい 誰も教えてくれなかった国民皆保険のこと」

⑤東京版救急受診ガイドについて

一般都民向けに東京消防庁救急相談センターがパンフレットを制作し発行

⑥平成23年度在宅難病患者訪問診療事業地区医師会別実施報告（第3四半期分）について

東京都全体で223回、西多摩では1回の訪問実績

2. 地区医師会からの報告

①中央ブロック（当番：神田医師会）

②城東ブロック（当番：江戸川区医師会）

①第27回足立医学会プログラムについて（足立区医師会）

- ③城西ブロック（当番：新宿区医師会）
- ④城南ブロック（当番：大森医師会）
- ⑤城北ブロック（当番：豊島区医師会）
- ⑥多摩ブロック（当番：立川市医師会）
- ⑦大学ブロック（当番：女子医大医師会）

3. 出席者による意見交換

4. その他

2. 各部報告

○学術部

「臨床報告会（2月21日）」について

公立福生病院多目的ホールにて 5 演題報告

○病院部

「市民フォーラム（2月17日）」について

羽村ゆとろぎホールにて講演会

—— 大人と子供のワクチン接種

○総務部

定時総会（3月30日）に向けた日程について

3月12日 理事及び監事・医道審議会委員の選出締切

3月13日 新・旧理事会・・・会長候補者の選出「選出理事による互選」

副会長候補者の選出「会長候補者による指名」

地区長会（監事・医道審議会委員の選出）

3月27日 定例理事会

3月30日 西多摩医師会定時総会

3. 地区会よりの報告（各地区理事）

青梅市 2/20 理事会・・・3/9 総会

福生市 2/21 理事会・・・3/9 総会

羽村市 3/6 総会

あきる野市 2/20 例会・理事選出

瑞穂町 2/28 医師会開催、理事選出、次年度予定協議

日の出町 2/24 医師会開催、理事選出

4. その他報告

○東京都医師会第7回スポーツ医学委員会（2月9日 會澤義之委員）

平成24年度東京都医師会主催研修会

第1回平成24年5月26日（土）午後3時～ 於 東京医大病院

第2回平成24年9月8日（土）午後3時～ 於 東京医大病院

諮問『健康スポーツ医が支援できる地区医師会活動』

- ・マニュアル作成目的で各地区へのアンケート完成、野中会長の承諾を得て郵送

- ・平成24年4月から必修となる武道、特に柔道（危険性が高いといわれている）について検討

- ・武道必修に伴い健康スポーツ医の活動の場を広げたり、学校医は健康スポーツ医と

なるべきか今後検討していく必要あり・・・組織化できないか検討

○東京都医師会第7回地域福祉委員会（2月23日 進藤晃委員）

諮問『超高齢化社会における東京の地域包括ケアの在り方について』

—— 2025年を見据えて ——

レポート

英 委員 地域包括ケア時代における東京都医師会の役割

～いかに医師会を中心とした地域当直医機能を構築するか～

西田委員 地域包括ケアシステムについての提言

～地域行政と医師会の連携について～

進藤委員 地域包括ケアシステムについて

高木委員 地域包括ケアについて

数井委員 地域包括ケアについて

講演

超高齢社会と日本の医療福祉政策 —— 真の地域包括ケアを目指して ——

東京大学高齢社会総合研究機構教授 辻 哲夫先生

報告事項

主治医研修事業について（品川医師会 2月21日 午後7時30分～）

【2】報告承認事項

1. 入・退会会員、会員変更について —— 今回該当者無し ——
2. 平成24年度日の出町立小・中学校医の推薦について（依頼） —— 承認 ——
3. 平成24年度日の出町立小・中学校耳鼻咽喉科及び眼科医の推薦について（依頼）
—— 承認 ——
4. 火災保険の更新について・・・平成24年4月1日
医師会館の建物及び什器設備器械等一式の火災保険 —— 承認 ——
（平成24年4月1日午後4時から平成27年4月1日午後4時まで）
5. 新嘱託職員用パソコンの購入について
デスクトップパソコン一式・・・118,320円 —— 承認 ——
6. 結核健康診断報告の提出について（西多摩保健所） —— 承認 ——
西多摩保健所からの書類送付あり（問い合わせは保健所）・・・記入提出のこと

【3】協議事項

1. 平成24年度事業計画（案）及び予算（案）について —— 承認 ——
2. 在宅医療連絡会の創設について —— 承認 ——
保険請求を可能とするためにも連絡会を創設していく予定
3. 西多摩地区市町村結核対策委員会委員の推薦について（依頼）
任期平成24年4月1日～平成25年3月31日
4. 西多摩医師会館のある青梅市西分町自治会より（依頼）
山車の幕の制作に関する寄付依頼あり —— 継続審議 ——

【4】その他

1. 山野井啓太氏と嘱託職員として労働契約書を作成し合意（平成24年2月17日）した

3月定例理事会

平成24年3月13日(火)

西多摩医師会館

〔出席者：横田・鹿児島・蓼沼・野本・川間・江本・池谷・川口・近藤・宮城・岩尾・山川・川上・松原〕

【1】報告事項

1. 各部報告

○総務部

3月13日新・旧理事会

1. 会長候補者の選出 「選出理事による互選」

横田卓史氏を選出

2. 副会長候補者の選出 「会長候補者による指名」

鹿児島武志氏を選出

医道審議会委員選出者により理事立ち会いの下委員長・副委員長を選出

委員長・・・原義人先生

副委員長・・・小机敏昭先生

事務の就業規則（案）・賃金規程（案）・退職金規程（案）・介護休業規程（案）

育児休業規程（案）の策定をしていく

○学術部

3月22日（木）パネルディスカッションの為のアンケート実施

2. 地区会よりの報告（各地区理事）

青梅市

福生市 3/9 臨時総会、理事選出

羽村市 3/6 総会、理事選出

あきる野市

瑞穂町

日の出町

3. その他報告

○東京都医師会第6回勤務医委員会（3月5日 進藤晃委員）

諮問事項 —— 勤務医負担軽減の具体策について ——

「勤務医の労働環境の問題点と改善策」及び

「患者対応の問題点と対応策について」のアンケート結果も踏まえて

- ・医師の勤務体系の見直し、特に当直や救急体制について

- ・地域医療システム再編に向けた環境整備の必要性

（民主党、政党運営型・市民参加の本格的政策立案サイト「東京ライフ」）より

【2】報告承認事項

1. 入・退会会員、会員変更について — 承認 —
2. 平成 24 年度休日・全夜間診療事業参画施設（参加）推薦について
青梅市立総合病院を推薦 — 承認 —
3. 平成 24 年度日の出町保育園嘱託医の推薦について — 承認 —
4. 平成 24 年度瑞穂町学校医について（依頼） — 承認 —
5. 平成 24 年度瑞穂町学校眼科医について（依頼） — 承認 —
6. 平成 24 年度福生市立第 3 小学校学校医推薦（内科）の選任について（変更依頼）
— 承認 —

【3】協議事項

1. 新定款（案）における正会員の資格等について（継続）
第 5 条 3 項
「正会員は同時に社団法人東京都医師会及び社団法人日本医師会の会員となる」
を削除 — 承認 —
2. 平成 23 年収支補正予算書（案）について — 承認 —
3. 平成 24 年度事業計画（案）及び収支予算（案）の一部変更について — 承認 —
4. 平成 23 年度第 2 回定時総会の開催案内（案）について
5. 西多摩地区市町村結核対策委員会委員の推薦について（依頼） — 継続審議 —
6. 山車の幕の制作に關しての寄付のお願い（青梅市西分自治会）について（継続）
約 120 世帯で 700 万円目標 西多摩医師会からは 10 万円の寄付を行う
— 承認 —

【4】その他

1. 医療関連法規集更新差替事務委託（中央法規出版）の停止について（報告）
備える義務はないので中止とした — 承認 —
2. 3 月 26 日（月）在宅医療機関連絡会

会 員 通 知

- 会報
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）
- 産業医研修会医師会（4/21 順天堂大学医師会）
- 学術講演会（3/23）
- 診療報酬点数改定に伴う講習会について
- がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会（青梅市立総合病院）開催のご案内
- 西多摩パネルディスカッション 2012 「認知症の鑑別診断」～専門医から学ぶ診断のコツ～（3/22）
- 平成 24 年度診療報酬改定に伴う講習会等開催要項・介護報酬改定に関する説明会
- 国民健康保険組合の保険証が更新されます
- 平成 24 年度東京都医師会主催「日本医師会主催教育講座」第 1 期（4 月～7 月期）の開催について
- 井上信治衆議院議員時局講演会（4/6）

- 東京都医師会平成24年度第1回学校保健(学校医)研修会開催要項
- 細胞診従事者講習会のお知らせ(3/10)
- 第25回西多摩心臓病研究会演題募集
- 西多摩医療圏摂食・嚥下機能障害に関する専門検査実施医療機関リスト
- 東京都医師会都民公開講座
- やっぱり看護が好き

- 平成24年度東京ナースプラザ研修計画一覧表
- 東京都小児総合医療センター診療のご案内
- 在宅医療連絡会ご案内
- 平成23年度西多摩医師会第2回定時総会開催通知
- 「診療報酬改定に伴う集団指導の開催のお知らせ」について

医 師 会 の 動 き

医療機関数	213	病 院	30
		医院・診療所	183
会 員 数	545	A会員	203
		B会員	342

会議

3月12日	総務会
13日	定例理事会、総務会
22日	西多摩地域糖尿病医療連携検討会
23日	会報編集委員会
26日	在宅医療連絡会
27日	西多摩地域脳卒中医療連携検討会
27日	定例理事会
30日	平成23年度西多摩医師会第2回定時総会

講演会・その他

3月8日	保険整備委員会
9日	学術講演会 演題：新規アルツハイマー型認知症治療薬～レミニールの使用経験～ 講師：順天堂大学大学院認知症診断・予防・治療学講座 准教授 本井ゆみ子先生
15日	法律相談
22日	パネルディスカッション2012 『認知症の鑑別診断』～専門医から学ぶ診療のコツ～ 【認知症症例について】 1. アンケート結果報告 梅郷診療所 江本浩先生

2. 専門医の立場から

『脳外科領域における認知症』
公立福生病院 脳神経外科
小山英樹先生

『精神症状と認知症の関連について』

秋川病院精神科 植田宏樹先生
『認知症の診療……神経内科の立場から』

青梅市立総合病院 神経内科
高橋眞冬先生

【パネルディスカッション】

パネリスト 小山英樹先生
植田宏樹先生
高橋眞冬先生

23日 学術講演会

演題：糖尿病実地診療におけるト
ラブル回避のためのQ&A
講師：かたやま内科クリニック
院長 片山隆司先生

26日 糖尿病セミナー

「症例から学ぶ糖尿病診療」
① 随時血糖462mg/dlで来院、治療に伴う低血糖回避が必須であった症例
公立阿伎留医療センター
内科部長 北森要一郎先生
② 著明なHbA1c低値を呈した一例
柳田医院 院長 柳田和弘先生
③ 歯周病と糖尿病および全身疾患との関連
布田歯科医院院長 布田博先生

「東京都医師会雑誌平成24年8月号(銷夏随想集)」原稿募集

東京都医師会雑誌8月号は例年「銷夏随想集」として都医師会員の先生方が執筆された随想及び写真などを掲載しています。別項のような応募規定がありますが当医師会所属で東京都医師会医の先生方の作品を募集いたします。

尚医師会1地区あたり応募件数は3編までとなっておりますので、応募多数の場合は応募した各先生方と協議の上選出させていただきます。

詳細については西多摩医師会事務局までお問い合わせ下さい。

東京都医師会雑誌 平成24年銷夏随想集 応募規定(要約)

◇随想、随筆、紀行文

- ・文字数は、1,500字以内
- ・政治や宗教を離れたもの
- ・漢字、仮名ともに現代用語を使用し、差別的表現は一切使用しない
- ・写真は1枚まで(印刷はモノトーンとなります)。

◇俳句、短歌、川柳

- ・お一人、いずれか5首、5句以内

◇絵画、書、写真等

- ・一人いずれか1点
- ・キャビネ判以下の写真にて提出
- ・掲載サイズは都医雑誌半頁分(10×15cm)以内

◇応募資格

東京都医師会会員であること。

◇申込方法

西多摩医師会を通じて申し込む

締め切り日は平成24年5月7日(月)(できるだけ4月27日まで)

◇東京都医師会ホームページについて

「東京都医師会ホームページ掲載についての承諾書」を提出

◇その他

- ・原稿の採用、不採用及び記述の訂正などは東京都医師会編集委員会が行います。
(応募多数の場合は各先生方と協議の上西多摩医師会広報部が選出させていただきます)
- ・投稿原稿、写真等は返却しかねます

表紙のこぼ



『大雪』

今年は寒く、日本海側は前代未聞の大雪でした。今日は2月29日遂に西多摩にも大雪が降りました。雪かきの最中、やっと咲いた紅梅を見つけました。春を感じ、ほっとしました。白い雪と黒い梅の枝とのコントラストも面白く写真を撮りました。

稲垣壮太郎

あ と が き



寒い冬の終わりを告げて春がやってくるとスギ花粉もやってくる。温かさによるうれしさよりも憂鬱な日々の到来を疎ましく思うのは私だけではないと思います。発症は高校生の頃。何だか急に目がかゆくなり、擦れば擦るほど痒くなる。さらに一日中鼻水鼻づまりで常に鼻をかまなければ垂れてくるのでティッシュを

箱ごと鞆にいれて持ち歩いていた事もある。満員の通学電車の中で何度も鼻をすすっているとタラーッと口の上を通過する一筋の冷たいものが!! 鼻水が鼻血に変わり慌てて指で押さえ、ティッシュを鼻に詰め込む姿に周りからは哀れな目で見られ、その事がトラウマとして今でも脳裏に焼き付いているせいなのか電車が嫌いです。しかし、現代では良い薬が開発されたお陰でそんな日々を過ごしていたことが嘘のようであり、眠くならないし花粉が煙のように舞うゴルフ場にいってもさほど気になる位まで症状が緩和されており、

心から良い薬を開発してくれた研究者、製薬会社に感謝しています。しかし、そんな製薬業界も年ごとにジェネリック薬の処方推進策などで国内、外資製薬会社も苦境に立たされているようで、新薬の開発が会社の生き残りに必須であるために、大変な企業努力を強いられている様です。東日本大震災から1年が経ち日本の復興はまだまだこれから時間がかかりそうですが、一度つないだ絆をほどかないように日本がさらに元気になることを願うばかりです。

渡邊哲哉

社団法人 西多摩医師会

平成24年4月1日発行

会長 横田卓史 〒198-0044 東京都青梅市西分町3-103 TEL 0428(23) 2171・FAX 0428(24) 1615

会報編集委員会 近藤 之暢

鹿児島武志 江本 浩 鈴木 寿和 馬場 眞澄 菊池 孝
桑子 行正 土田 大介 奥村 充 渡邊 哲哉

印刷所 マスタ印刷 TEL 0428(22) 3047・FAX 0428(22) 9993



お客さまの幸せづくり
たましん

**みなさまと
ともにいます。**

人に、笑顔を届けます。
仕事の、そばにいます。
街に、喜びを広げます。

たましんは、
いつもみなさまとともにいます。
これまでも、これからも。

たましん
お客さまの幸せづくり

多摩信用金庫

診療所向け電子カルテシステム



BMLには誇りと実績があります。

★日本全国のお客様をサポートしてます。

★全診療科に対応してます。

★多彩な入力ツールを用意してます

★多くの連動システムに対応してます

★オンライン請求に向けたレセ電算化に
全国で対応可能です。



株式会社 **ビー・エム・エル**

埼玉第三営業所

TEL:049-232-0111

「西多摩医師会」会員の皆さまへ

東京厚生信用組合は
福祉・医薬・医療・環境
衛生の関連事業者の
発展に寄与してまいります。

東京厚生信用組合は、
医療関連事業を営む皆様を
対象として、1953年に設立された
協同組織の金融機関でございます。

既に各地区医師会で多数の会員の皆様に
ご利用頂いております。これからも、
会員の皆様に密着した金融機関として
努力して参ります。

安心と信頼の
パートナー

貴重なお時間を有効にお使い
いただくため、訪問による相談
業務を得意としております。

お問い合わせは：医師会様担当 落合まで
●本部〈フリーダイヤル〉

0120-294805

ご融資

- クリニック運営資金
- 学術研究資金
- ご子息の教育資金
- 記念パーティー等の資金
- お車購入資金
- その他どんな事柄でも
ご相談くださいませ。

都医ニュースでお馴染みの「東京厚生信用組合」です。



「人間・福祉・環境」にやさしい

東京厚生信用組合

本店 新宿区西新宿6-2-18/浅草支店 台東区駒形1-1-12
小平支店 小平市美園町1-31-1/青梅支店 青梅市河辺町10-8-3